

令和7年度新潟水俣病関連情報発信事業の取組

■新潟水俣病情報発信事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、民間団体等が提案する新潟水俣病の教訓の情報発信を行う事業に対し、補助を実施します。

3 団体 3 事業に補助（公募）

〔補助事業〕

○ 新潟大学

「市民の共同体づくりへの意識化と実践に向けた〈ファシリテーション・スキル〉の養成」

【事業目的】

連続講義で得られた問題関心にに基づき、現在行われている新潟水俣病に関するケア実践や文化活動に焦点を当て、情報収集ならびに、調査方法の学習、社会に向けた発信の方法について、協働学習を通して主体的に学ぶ。

また、広く一般市民に向けて研究成果を発表するための報告会を開催する。

【事業内容】

- ・ 学内での講義・協働学習
- ・ 現地実習（現地踏査）
- ・ 市民社会に向けた発信

○ 新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進：教育現場での有効な水俣病の多角的な伝え方に関する調査」

【事業目的】

新潟水俣病の公式確認から60年目を迎え、若い世代に向けた新潟水俣病を語り継ぐための活動が地域貢献には不可欠である。

被害の実態を学びながら水俣病をどのように理解した上で、水俣市の環境への取り組みから、水俣がどのように公害を受け止めて、環境問題と接続させ、次世代に向けた環境意識の向上につなげているのかを調査する。

新潟では阿賀野川流域等の訪問と特別講義、ワークショップを連携させながら、水俣病事件を風化させない多様な語り方を確認し、その中で若い世代にはどのような語り方が有効かを検討し、水俣病事件を繰り返さない効果的な伝承方法を見出していくことで、新潟における今後の情報発信に関する施策につなげていく。

また、学内にある水俣病関連情報コーナーを活用し、学生や地域住民が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得できるようにする。

また、水俣及び阿賀野川流域訪問の成果を多様な授業で紹介し、事業主体共同のシンポジウムを実施していく。

【事業内容】

- ・ 阿賀野川流域視察、フィールドワーク

- ・ 水俣市周辺訪問
- ・ 特別講義、ワークショップ
- ・ 事業主体共同フォーラム

○ 新潟医療福祉大学

「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業
－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－」

【事業目的】

- ①事業の主体となる学生の新潟水俣病に対する正しい理解と持続的な活動に向けた動機づけを高める。
- ②交流活動や健康教室等を通じて信頼関係を形成できた患者の方々から「主観的体験としての事実」を聴き取り、次世代に伝えるための記録を集積する。
- ③学生等による発生地域の現地学習を通じて、「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた意識や行動の変容を図る。
- ④同意の得られた患者の自宅等に学生が訪問し、学びを得たり話し相手になる生活支援の有効性について検討する。
- ⑤3大学フォーラムや事業報告会等による「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた啓発活動を行い、新潟水俣病関連施策の推進に寄与する。なお、事業の成果等の情報発信については、「新潟県立環境と人間のふれあい館」と連携し効果的な方法を検討する。【事業内容】

- ・ 新潟水俣病に関する事前学習プログラム
- ・ 新潟水俣病患者へのアウトリーチ支援
- ・ 新潟水俣病患者からの語り部による口演
- ・ 新潟水俣病患者への聴き取り
- ・ 新潟県における現地学習
- ・ 新潟水俣病患者との交流プログラム
- ・ 新潟県民に対する情報発信プログラム

< 3 大学合同フォーラム >

日時：令和8年3月7日（日） 13時～16時

場所：新潟県立大学 1号館B棟2階1257 講義室（Zoom視聴可）

内容：(1) 大学からの発表

- ・水俣病との出会い～私たちに投げかけてくる問いをめぐって～
（新潟県立大学）
- ・となりの「ミナマタ」
（新潟大学）
- ・歴史を紐解き「ともに生きること」の再考～川の流れとともに～
（新潟医療福祉大学）

(3) 新潟水俣病公式確認60年アンケート調査結果報告

「ウェルビーイング向上のために何が求められているのか 新潟水俣病公式確認60年アンケート調査結果を踏まえて」

(4) ワークショップ～「新潟水俣病の60年」～

参加者を6名程度のグループに分け、グループごとに、「水俣病を次世代へ伝える方法」について話し合い、グループで出した意見を全体に向けて発表する。

参加人数：一般参加者、学生、教員と合わせると、40名程度が現地参加



各大学発表



アンケート調査報告



ワークショップの様子